

ニワトリ

この数か月、鬱状態にあり与太断を書こうと言う気が起らなかったが、梅雨の中休みで青空が時々見えるようになって少しやる気が起きて来たので、元気づけのために最近思っていることを書いてみたい。今日書こうとしているのは鶏（ニワトリ）ならぬ庭鳥（ニワトリ）についてである。我が家の狭い庭にはカラスを始め、鳩、尾長鳥(学名は不明)、ギャーギャー(同左)、鶴鳩（セキレイ）や雀など沢山の鳥たちが飛来する。彼等の訪来目的は、勿論、もてない男の私を慰めるためなどではなく、私が庭に毎日撒くパンや飯粒をついばむため、私はいわば彼らのスポンサーという訳である。

我が家は庭に面して観音開きの硝子戸があり、そこを開けてベランダに出ることが出来る。その硝子戸の内側には蛇腹式の網戸があり、夏の間はガラス戸を開放し網戸だけにして涼風を入れている。網戸の色は黒で、家の中から外ははっきり見えるのに、外から家の中は見えない、いわばマジックミラーのようになっているので居間から庭鳥たちのいる外を観察するには便利である。

ベランダの先の階段を2段降りるとその先は雑草交じりの芝生になっているが、雑草が伸びすぎると庭鳥たちが餌を見つけるのが難しくなるので、刈払い機(騒音を立てる2サイクルエンジン付きの丸鋸の草刈り機)で草刈りをする。10数センチに伸びた雑草をエンジン全開でブンブン刈り取るのは人間の破壊本能を満たす欲求不満解消法であるから、最近のように雑草の成長が早い時期だとほとんど毎月草刈りをして日頃のうっぷんを晴らしている。

毎日餌を上げているのに、鳩を除く鳥たちはスポンサーである私に対して決して警戒心を解かず側に寄ってこない。私の姿が見えなくなると、何処からともなく鳥たちが現れパンとご飯をついばんでいく。特に春先から夏にかけて田舎では「タチッコ」と呼ばれる雀の子供が親鳥と一緒に来て「チュンチュン」ではなく「シリシリ」と鳴きながら親鳥から口移しで餌を食べる姿は真に微笑ましい。

鳥の社会にも嫌われ者はおおり、それがカラスである。カラスはその大きな図体で餌を瞬く間に食い尽くすばかりでなく、他の鳥たちを威嚇して追い払ってしまう厄介者である。だから私はマジックミラー越しに常に庭を監視し続け、カラスが来ると網戸を開けて「ギャー」と怒鳴ることにしている。勿論カラスばかりでなく他の鳥たちも逃げるが、彼等も私が彼等の味方であることは認識しているらしく、直ぐに舞い戻ってくる。鳩もギャーギャーも尾長も餌を独占することはなく他の鳥たちと仲良く平和な光景を見せてくれるのである。

毎日餌をやりながら、彼らの食欲について少し学術的に調べたいと言う欲求が出て来た。このような兆候は鬱から躁への移行時期と一致する。まあ否定的なことばかり考えてウジウジしているより少しは前向きになる方が精神衛生上もよろしいので、この学術的な思考を推し進めることにした。

先ず、毎日彼らが食する飯粒が彼等にとってどれ程のものかと考えた。そのためには飯粒一つの重量を知る必要がある。我が家にある秤で一番軽量なものに対処できるのは、郵便物などg(グラム)単位まで測れるものであるが、その秤に飯粒をいくら載せてもなかなか1gには達しない。また1gに達した後続けて載せてもまだ依然として1gを示したままであるから、ちょっと頭を使って少しずつ飯粒を増やしていった丁度2gになったところで、飯粒の数を数えて見た。

私は米を炊くとそれをプラスチックの容器に入れて冷凍保存する。それを冷凍庫から出し冷蔵庫に移し替えて解凍すると、飯粒がバラバラになるのでそれを水に溶き水ごと庭に撒いてやる。飯粒の数を勘定するにはバラバラの方が易しいので、茶さじで少しずつ秤に載せていき、丁度2gになった時の飯粒の数

を数えたら 43 個だったが、簡単のため 40 個とすると、飯粒 1 個の重量は大凡 $2/40=0.05\text{g}$ となる。次に考えたのは、 0.05g の飯粒が鳥たちにとってどの程度腹を満たすものであるかという試算である。人間の食欲との比較のため私はコンビニのおにぎりと寿司を買ってきてその重量を測って見た。それらを一覧表にすると、

おにぎり 1 個	120g
寿司 1 貫	30g

これらが 60kg の体重の人間とおにぎりの比較において、鳥のそれとどうなのかを知ろうと思う。人間に対するおにぎり 1 個の割合は $120/60000=0.002$ である。同じ比率を体重 200g の鳩と 100g のギヤーギヤーと 50g の雀に当てはめると、

鳩の場合 $200 \times 0.002 = 0.4\text{g}$ 、つまり鳩にとっては $0.4/0.05 = 8$ 即ち飯粒 8 個でおにぎり 1 個分である。

ギヤーギヤーの場合 $100 \times 0.002 = 0.2\text{g}$ 、つまりギヤーギヤーにとっては $0.2/0.05 = 4$ 、即ち飯粒 4 個がおにぎり 1 個に相当する。

雀の場合 $50 \times 0.002 = 0.1$ 、同様に $0.1/0.05 = 2$ 、即ち米粒 2 個がおにぎり 1 個に相当する。

私が毎朝庭に撒く米粒は寿司の約 2 貫分、約 60g である。つまり鳩だけが庭に来たと仮定すると $60/0.4 = 150$ 、即ちおにぎり 150 個、雀だけなら 600 個分を撒いていることになる。一度に我が家の庭を訪れる鳩は多くて 4 羽、雀は 10 羽くらいであるから、彼等には十分すぎるくらい飯粒は供給されているに違いない。

私は昔の会社の仲間と月に一度、月例のコンペを行っている。私の生甲斐は並み居るライバルたちに競り勝ち優勝賞金 $6,000$ 円也を得て、彼等から賞賛の言葉を頂くことだが、こんな機会は年に 1, 2 回しかない。4 月のコンペの前日、明日の優勝を夢見て庭のケージ（幅 3.5m x 高さ 2.5m の鉄パイプの枠に網を張ったゴルフ練習用の網）に向かってボールを打ち続けていたら、何処からともなく現れた 1 羽の鳩がケージの上に止まり羽を休めながら、私の練習を見守っていた。ボールをぶつけては可哀想なので、家の中に入り飯粒を水に溶いてケージから離れたところに撒いて彼をそこに導いた。

次の日、私は自分でも不思議なくらい落ち着いていて、そんな経験は初めてだったが自分の思い描く通りのゴルフが出来た。ゴルフをやっている最中無意識に体が動くような不思議な感覚にとらわれていたがその時はそれが何だかわからなかった。しかし、後になって思いついたことがあり調べてみたら、何と神武天皇が東征し、長髓彦との決戦を前にした時、鷹が弓の先に止まり金色に輝きその戦いに勝利したと言う言い伝えがあることを思い出し、もしかしたらゴルフの神様が私に鳩をお使わしになったのではないかと確信するようになった。

「なーにを馬鹿なことを言っているでえ、ハンデが 25 もありやあ、勝てるに決まっているさよー。」とわれそうだが、何時も大叩きをしている身にとっては、神武天皇や金色の鷹やゴルフの神様の鳩を引合いにだし、何とか今回の自分のゴルフを正当化し、今後も神様に見守られたいと思うのは当然で、今日もゴルフの神様の化身の鳩にせさせと米粒を提供し続けるへぼゴルファーの私である。

完